

# 2005 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 2 月 7 日作成)

|                              |   |                               |
|------------------------------|---|-------------------------------|
| 小委員会名                        | 民家小委員会  | 主 査 名：大場 修<br>就任年月：2003 年 4 月 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 建築歴史・意匠委員会  | 委員長名：吉田 鋼市<br>主 査 名：          |
| 設 置 期 間                      | 2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月   |                               |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(簡条書き) | <p>・(設置目的) 伝統的民家や町家、歴史的町並に関する研究や保存修復に関わり、学術的な立場からこれらの今日的課題を明らかにしつつ、課題解決に相応しい具体的な諸事業に取り組むことを目的としている。</p> <p>・(2005 年) 1. 学会大会において、PD の開催。テーマ「民家研究 50 年の軌跡と民家再生の課題」/2. 民家・町並みニュース No.28 の刊行/3. 民家研究史を総括した上で、民家の保存、再生など今日的な諸課題に対する啓蒙・啓発を目的とする著書の編集</p>   |                               |
| 委員構成<br>(委員名(所属))            | 委員公募の有無：  |                               |
|                              | <p>01 主査 大場 修 京都府立大学人間環境学部環境デザイン学科</p> <p>02 幹事 平山育男 長岡造形大学造形学部環境デザイン学科</p> <p>03 幹事 大野 敏 横浜国立大学工学部建設学科</p> <p>04 委員 高橋恒夫 東北工業大学建築学科</p> <p>05 委員 福井宇洋 福井大学工学部建築建設工学科</p> <p>06 委員 上野勝久 文化庁文化財部建造物課</p> <p>07 委員 片桐正夫 日本大学理工学部建築学科</p> <p>08 委員 角 幸博 北大工学研究科都市環境工学専攻</p> <p>09 委員 迫垣内裕 比治山大学短期大学部生活学科</p> <p>10 委員 土田充義 鹿児島大学工学部建築学科</p> <p>11 委員 土本俊和 信州大学工学部社会開発工学科</p> <p>12 委員 溝口正人 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科</p> <p>13 委員 中川 等 大阪産業大学工学部環境デザイン学科</p> <p>14 委員 原田聡明 八代市教育委員会</p> <p>15 委員 三浦要一 高知女子大学生生活科学部生活デザイン学科</p> |                               |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           |   |                               |
| 2005 年度予算                    | 240,000 円   | ホームページ公開の有無：無<br>委員会 HP アドレス： |

| 項 目                            | 自己評価   |
|--------------------------------|--|
| 委員会開催数                         | 2 回 (年度内計画を含む)   |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は<br>除く)      | 無  |
| 講習会                            | 無  |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)  | 無  |
| 大会研究集会                         | 1. 民家研究 50 年の軌跡と民家再生の課題<br>「民家研究 50 年の軌跡と民家再生の課題」  |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等             | 無  |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得られた成果との関係) | <p>1. 多数の参加者を得、資料も完売し、予想以上の成果を得た</p> <p>2. 研究集会の資料との合本形式で刊行した。</p> <p>3. 著書の刊行には至らなかったが、研究集会の開催により、その方向性を確認することが出来た。</p> |
| 委員会活動の問題点・課題                   | <p>1. 活動計画 3. の実現を当面の目標・課題として捉えさらに取り組みを強める。</p> <p>2. 民家再生などの学術面以外における今日の状況を、委員会活動の中に如何に取り込むか。</p> <p>3.</p>             |